

プライオリティールール

【4or3 メンプライオリティールール】

・ヒート開始後、プライマリーテイクオフゾーン(以下 PTZ)に到着した時点では、プライオリティールールは発生しない。

・PTZ とは、波がブレイクするテイクオフゾーンであり、プライオリティージャッジが目視で確認し、設定される。一日を通して、潮の干満などにより、波がブレイクする場所が変化する場合は、状況に合わせて、プライオリティージャッジにより、PTZ が移動される。

・プライオリティージャッジはプライオリティールールが施行されている間に、選手が着用しているゼッケンカラーに対応した、カラー表示システムを使って、海の中に居る選手に優先順位を示すよう、判定を行う。

・ヒート開始後、誰もライディングを行っていない、プライオリティールールが発生していない状態の場合、従来のインターフェアレンスルールが適用される。

・最初にライディングをして、PTZ に戻った選手に対して、4 番目(3 番目)のプライオリティールールを与える。次にライディングをした選手が PTZ に戻った時点で、その選手に 4 番目(3 番目)のプライオリティールールが与えられ、それまで 4 番目(3 番目)のプライオリティールールだった選手が 3 番目(2 番目)に繰り上がる。PTZ に残った選手もライディングを開始し、PTZ に戻ると、同様にプライオリティールールが繰り上がっていく。

・そのプライオリティールールを持った選手が、波に乗る又は、乗る姿勢を取ってパドルをし、失敗した場合でもプライオリティールールを失う。

・2 人の選手が同時にライディングし、同時に PTZ に戻った場合、先にプルアウト又は、ライディングを辞めた選手に、上のプライオリティールールが与えられる。

・高い優先順位を持っている選手が、意図的に PTZ で他の選手が波を捉える行為を妨害する位置に留まる場合、プライオリティールールを失う事がある。

・多数のジャッジが妨害を気付かなかった場合、ヘッドジャッジの判断だけで、妨害をコールされる事もある。

・プライオリティールールが施行されている状況下では、選手自身が責任を持って、システムの表示、及び状況を確認する義務がある。

・ヒート開始後、プライオリティージャッジにより、決められた優先順位に従わなければならない。

【4or3 メンプライオリティー妨害】

・高い優先順位を持っている選手に対して妨害した場合、ベスト 2 ウェイブの 2nd ベストウェイブを全てカットされ、ベスト 1 ウェイブのみのカウントとなる。

・プライオリティーを持っていない選手に対して妨害した場合、従来通り、ベスト 2 ウェイブが 1/2 となり、カウントされる。

・妨害された選手はヒート時間中にエクストラウェイブが与えられる。(マキシマムウェイブの設定があるときに限る。)

・ダブルインターフェアレンスの場合、エクストラウェイブは与えられない。

・同じヒートで妨害を 2 回行った選手は、直ちに競技エリアから出なければならない。

①:2 回の妨害共、プライオリティーを持たない選手に行った場合、ベスト 1 ウェイブのカウントになる。

②:1 回目の妨害がプライオリティーを持たない選手に行き、もう 1 回の妨害が、その選手より上のプライオリティーを持った選手に行った場合、ベストウェイブが 1/2 となり、2nd ベストウェイブがゼロになる。

③:2 回の妨害が、両方、その選手より上のプライオリティーを持った選手に行った場合、失格となる。

・妨害された選手が妨害を行った選手よりプライオリティーが下の場合、ノンプライオリティー妨害となる。妨害した選手は 2nd ベストウェイブが 1/2 となる。

この 4or3 メンプライオリティーは 2018 ISA RULE BOOK を抜粋して訳したものです。

NSA の試合運営上で不足している部分があった場合、オリジナルの ISA RULE BOOK を参照し、NSA ルールに則りプライオリティージャッジの見解によって判断されます。

どのような状況においても、もしプライオリティーシステムが機能していない事により、議論が起きた場合は、NSA ルールに則り、ヘッドジャッジ、コンテストディレクターにより仲裁されます。